

村田晃嗣学長の公聴会における公述人発言に対して強く抗議します

わたしたちは、2015年7月1日、同志社大学フェミニスト・ジェンダー・セクシュアリティ研究センターを発足させました。日本で初めての「フェミニスト」が名前についた研究所です。

京都という地でキリスト教精神に則った良心教育を始めた同志社大学において、社会正義の実現に寄与し、暴力・武力・戦争の世紀を終わらせることを一つの目的とするフェミニスト・ジェンダー・セクシュアリティ研究センターの設置が正式に認められたことを誇りに思っています。

ところが、村田晃嗣同志社大学学長は、7月13日に行われた衆議院特別委員会の公聴会において、違憲の疑いが極めて濃い安保関連法案について、「安全保障の専門家からなる学会で意見を問われれば、多くの安全保障専門家は今回の法案にかなり肯定的な回答をするのではないか」と発言しました。

わたしたち同志社大学構成員を代表する学長が、国家の根幹に関わる憲法を無視するような見解を述べ、しかも時の政権、大国の権力におもねるような態度に対して、わたしたちフェミニスト・ジェンダー・セクシュアリティ研究センターは、強く抗議します。

村田学長は、同志社大学の建学の精神である、キリスト教主義、自由主義、国際主義という三つの精神を支えている良心教育に反する見解を国会という場で開示しました。学長が繰り返し述べた、国際情勢の急激な変化のなかであれば憲法を無視してよいかのような発言に対して、わたしたちは、「変化の速い時代だからこそ、時代に流されるのではなく、確かな理念を見つめて取り組んでいく」という、同志社大学の理念をもって応えたいと思います。

2015年7月16日

同志社大学フェミニスト・ジェンダー・セクシュアリティ研究(FGSS)センター
研究センター長 岡野八代
研究センター一同